代表取締役社長　兼COO（最高業務執行責任者）

仙田 貞雄

マテリアルの知恵を活かしながら地球環境保全の取り組みをさらに加速させ、持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

三井金属グループの環境理念をご説明ください。

鉱物資源の採掘を事業のルーツに持つ三井金属グループは、創業以来一世紀を超える歴史を地球環境と共に歩んできました。環境保全に全社を挙げて取り組み、かけがえのない地球を次の世代に残すことは、三井金属グループに課せられた責務だと考えています。

また、非鉄金属製錬をはじめとする三井金属グループの諸事業は、環境汚染事故を引き起こすリスクを低減させるためのコンプライアンス（法令遵守）の徹底や災害予防の強化が欠かせません。海外を含む全所社に適用する環境基本方針を定めるとともに、ISO14001に基づく厳格な環境管理体制を構築し、省エネルギーやCO_2の削減、環境汚染物質の排出量削減、安全衛生管理といった重要課題に真摯に取り組んでいます。

三井金属グループの環境活動の特色は何でしょうか。

生産活動における環境負荷の低減だけでなく、環境に配慮した技術や製品の創出にも経営資源を投入していることです。たとえばハイブリッドカーや電気自動車には、三井金属グループが材料を提供するニッケル水素電池やリチウムイオン電池が使われています。次世代の動力源として注目されている燃料電池を検討する一方、太陽光発電向けには各部材向け素材を供給しています。このほか、屋上緑化に役立つ人工軽量土壌などさまざまな用途を持つパーライトや、医薬品の変質を抑える酸化セリウム系脱湿・脱酸素剤など、多種多様な環境配慮型商品を社会にご提案しています。三井金属グループは今後も、長年に亘り培ってきた高度な技術力を駆使し、製品を通じた環境負荷の低減に努めていきます。

地球温暖化防止に向けては、どのような取り組みを進めていますか。

三井金属グループは、製錬事業を中心に電力、燃料油、コークス等を使用する「エネルギー消費型産業」に属します。地球温暖化防止への貢献を環境活動における最重要テーマのひとつと考えており、これまで継続的な取り組みを実行してきました。2010年3月期のエネルギー使用量は前年度比で3.2%減、CO_2排出量は前年度比4.4%減を達成しています。2010年4月には、銅箔を製造する上尾事業所で新たにヒートポンプ方式の省エネ機器を導入し、大幅な省エネルギーを実現しました。

三井金属グループはリサイクル事業や廃棄物の削減で大きな成果をあげています。

金属の分離精製は三井金属グループが最も得意とする分野です。製錬に関わる資産やスキルを活かせるビジネスとして広範な領域でリサイクル事業を展開し、循環型社会の一翼を担ってきました。

八戸製錬(株)、竹原製煉所及び三池製錬(株)では多様なリサイクル

原料から亜鉛、銅、鉛を回収するとともに、その他の成分もスラグ（鉱滓）として活用しています。神岡鉱業（株）の鉛リサイクル工場、竹原製煉所及び三井串木野鉱山（株）では電子基板等から金、銀などの貴金属を回収しています。資源の不足と偏在が懸念されているレアメタル（希少金属）についても積極的なリサイクルを進めています。

廃棄物の削減にも力を入れています。ここ数年、三井金属グループの廃棄物発生量は着実に減少傾向を辿っています。

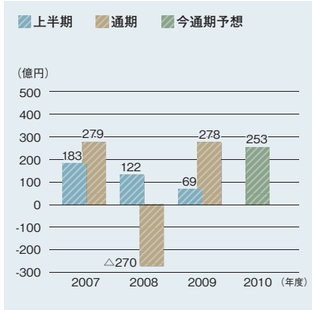
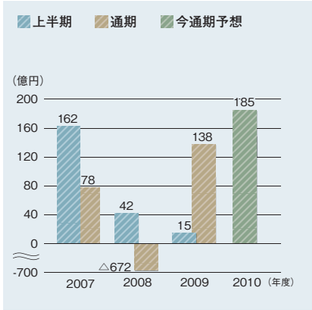
環境保全活動の今後の展望をお聞かせください。

環境保全に対する取り組みにゴールはありません。私たち三井金属グループはこれからも、さまざまな側面から環境問題への対応を進めていきます。温暖化防止活動や資源リサイクルを更に進展させると同時に、社員一人ひとりの意識向上を図るため、環境や安全に関する教育にこれまで以上に力を注ぎます。また、地域との共生をめざし、事業所周辺の清掃といった社会貢献活動を推進します。

三井金属グループでは、資源、環境、エネルギー、リサイクル分野を、今後注力すべき事業領域と位置づけています。成長への原動力である「マテリアルの知恵」を環境対応にも活かしながら、持続可能な社会の構築に向けて貢献してまいります。

売上高

営業利益



当期純利益